

通 信

沖縄生物学会第56回大会の開催のお知らせと講演プログラム

沖縄生物学会の第56回大会を下記の要領で開催いたします。今大会は口頭発表19題、ポスター発表25題(高校生3題、一般22題)の発表を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

沖縄生物学会 第56回大会

会期:2019年5月25日(土)

会場:公立大学法人名城大学・学生会館(サクラウム)

問い合わせ先(大会長:新垣裕治まで):0980-51-1081(研究室)、代表 0980-51-1100(代表)、
okibio2019@meio-u.ac.jp(メール)

大会日程

受 付	8:50~	サクラウム 3 階
開 催 挨 拶	9:20~9:25	サクラウム 3 階(A 会場)
一般講演(口頭発表)	9:30~12:15	サクラウム 3 階(A・B 会場)
休 憩(昼食)	12:15~13:15	サクラウム 2 階(カフェ)※控室
総 会	13:15~14:15	サクラウム 3 階(A 会場)
休 憩	14:15~14:30	サクラウム 2 階(カフェ)※控室
高校生・一般ポスター発表	14:30~16:00	サクラウム 3 階
公開シンポジウム	16:00~17:30	サクラウム 3 階(A 会場)
懇親会	18:00~	大学食堂

沖縄生物学会第56回大会準備委員会

大会長 新垣裕治

準備委員会委員長 新垣裕治

準備委員会委員:山城秀之、守田昌哉、磯村尚子、渡邊謙太

一般講演【9:30~12:15】

*** 今大会は2会場(A会場、B会場)で行いますので、ご注意ください。**

<A会場(サクラウム3階)>

O-01 9:30-9:45

琉球列島のアザミサンゴの遺伝子型と表現型の関連性

○中島祐一・Patricia H. Wepfer・御手洗哲司(OIST)

O-02 9:45-10:00

沖縄県沿岸に生息するカキ *Crassostrea angulata* のミトコンドリア DNA 配列の解析

○塚原正俊・阿部峻之・塚原恵子・島田康子 (バイオジェット)・西川信良 (牡蠣研究家)・
本間公也 (共和コンクリート工業)

O-03 10:00-10:15

Seasonal analysis of water quality parameters affecting adjacent coral reefs in subtropical river estuaries on the Okinawa Island

○Rhyner Timo (Univ. Ryukyus, Researcher of Science and Technology), Haruko Kurihara (Univ. Ryukyus, Faculty of Science)

O-04 10:15-10:30

サンゴ礁砂浜海岸に生息する無脊椎動物におけるマイクロプラスチックの取り込み状況と体内残留性有害物質

○藤田喜久(県立芸大)・高田秀重(東京農工大)・水川薫子(東京農工大)・渡邊 泉(東京農工大)・山口晴幸(防衛大)・野上大介(JANUS)

O-05 10:30-10:45

食草色がヤマトシジミ幼虫の体色決定に及ぼす影響

○吉田愛(琉球大・院・理工)・大瀧丈二(琉球大・理)

【休憩 10:45-11:00】

O-06 11:00-11:15

オキナワイシカワガエル will be Back

○千木良 芳範 (宜野湾市博)

O-07 11:15-11:30

イボイモリの変態後の成長について

○城間大輝(琉球大・理・海自)・富永篤(琉球大・教育・理科)・山本結紗(東京農工大)・
栗田一輝(京都大・人間環境)・千木良芳範(宜野湾市博)

O-08 11:30-11:45

標識再捕獲法で得られたイボイモリの移動距離、行動圏に関する知見

○富永篤(琉球大・教育・理科)・城間大輝(琉球大・理・海洋自然)・山本結紗(東京農工大)・
栗田一輝(京都大・人間環境)・千木良芳範(宜野湾市博)

O-09 11:45-12:00

飼育下におけるケナガネズミの雌雄間干渉行動

○永井咲季(琉球大・理工)・小林峻(琉球大・理/農)・金城輝雄(沖縄こどもの国)・伊澤雅子(琉球大・理)

<B会場(サクラウム3階)>

O-10 9:30-9:45

渡嘉敷島における側溝に落下して死ぬ小動物について

○楠井善久(那覇市首里)

O-11 9:45-10:00

大学博物館による生物教材を用いた特別支援学校と院内学級への教育支援

○佐々木健志(琉球大・博物館)

O-12 10:00-10:15

「川口四郎関係資料」からみた琉球列島におけるサンゴ研究:研究者アーカイブズの活用可能性と課題

○佐藤崇範(琉球大・島嶼地域研)

O-13 10:15-10:30

データベース「琉球の植物」と島レベルの植物相比較

○國府方吾郎(科博・植物)・海老原淳(科博・植物)・阿部篤志(沖縄美ら島財団)・齋藤由紀子(琉大・教)・天野正晴(沖縄美ら島財団)・中村剛(北大・植物園)・横田昌嗣(琉大・理)

O-14 10:30-10:45

沖縄県サンゴ礁保全再生地域モデル事業のこれまでの成果と課題

○長田智史(沖環科)・津波昭史(沖縄県・自然保護)・中村良太(水産土木)・當山真由美(都市科学)・比嘉 貢(沖縄県・自然保護)

【休憩 10:45-11:00】

O-15 11:00-11:15

外来魚ティラピアを雄化根絶するシステム構想

○嶋津信彦(しまづ外来魚研究所)

O-16 11:15-11:30

無脊椎動物におけるヘマトキシリン・エオシン(HE)染色標本での蛍光顕微鏡観察の利点

○泉水奏・大倉信彦(琉大医)・James Davis Reimer・喜瀬浩輝・広瀬裕一(琉大理)・小山洋道(元横浜市大医)・長谷川和範(国立科博)・柳研介(千葉中央博)・大森紹仁(新大臨海)・大矢佑基(北大理)

O-17 11:30-11:45

1万5千年前の沖縄島の海域環境ーサキタリ洞遺跡の発掘成果から

○黒住耐二(千葉中央博)・山崎真治(沖縄県博)

O-18 11:45-12:00

沖縄県うるま市におけるヤシガニの生息状況と那覇市公設市場の販売数変動

川満 陸・○山川(矢敷)彩子(沖国大・地域環境)

O-19 12:00-12:15

大浦マングローブ林 40 年の変遷ー植生・森林構造は 40 年でどう変遷したかー

○安座間安史(琉大・教育・講師)・島袋徳正(沖生会)・與儀春樹(沖昆同好会)

【12:15~13:15】 休憩(昼食)

【13:15~14:15】 総会 サクラウム3階 A会場

【14:15~14:30】 休憩

【14:30～16:00】 高校生・一般ポスター講演

会場: サクラウム 3 階

<ポスター講演(一般)>

P-01 瀬底島における海藻相の季節変化

○新井嵩博・鈴木秀和・神谷充伸(海洋大・院・藻類)

P-02 日本新産珪藻 *Tabularia sinensis* Y. Cao et al. について

○御厨彩桜理・西田千尋・木嶋久美子(福岡工大院・生命環境)・堺眞砂美・三田 肇・天田 啓
(福岡工大・生命環境)

P-03 久米島の植物相調査により新たに見出された維管束植物

○齊藤由紀子(琉球大・教育)・天野正晴((一財)沖縄美ら島財団・総合研究セ)・立石庸一
(琉球大)

P-04 琉球列島と小笠原諸島に生育する動物散布性樹木の果実特性

○渡邊謙太・安里咲空良・山城瑠唯・大兼颯・川満日向子(沖縄高専)・園田美穂子(名護市)

P-05 鳥糞から探る沖縄島の種子散布共生系

大兼颯・○リーキア美海(沖縄高専)・森本元・茂田良光(山科鳥類研究所)・渡久地豊(リュウキ
ュウロビン)・萩野航・三宮一幸・渡邊謙太(沖縄高専)

P-06 超広域分布植物ナガミハマナタマメの集団間 F1 が示す種内の生殖的隔離の実態

○梶田結衣(琉大・熱生研・西表)・山本崇(多摩大附属聖ヶ丘中高)・栄村奈緒子(鹿大・農)・井
村信弥(琉大・熱生研・西表)・石垣圭一(琉大・熱生研・西表)・堤ひとみ(琉大・熱生研・西
表)・Alison KS WEE(広西大林学院)・高山浩司(京都大・院・理・植物)・梶田忠(琉大・熱
生研・西表)

P-07 沖縄島におけるポチョウジ属 2 種の棲み分けと根圏菌叢の多様性解析

○宮城愛夏・善岡祐輝・渡邊謙太(沖縄高専)・井口亮(産総研・地質情報)

P-08 ヒルギダマシ(*Avicennia marina*)の果実の果皮剥離に及ぼす要因について

○新垣裕治(名桜大・国際・観光)

P-09 西表島の河川における淡水性エビ類の分布特性

○井上太之(東海大・沖縄地域研)・塚田直哉(東海大・海洋)・崎原 健(東海大・沖縄地域
研)・土井 航(鹿児島大・水産)・河野裕美(東海大・沖縄地域研)

P-10 トウガラシの辛さを魚類は感じるのか

○渡具知浩之(琉球大・理工)・Hur Sung-Pyo・Hyeon Ji-Yeon(KIOST)・竹村明洋(琉球大・理)

P-11 沖縄県西表島に定着しているカダヤシの繁殖特性 –神奈川県藤沢市の個体群との比較–
嶋山類(水研セ・増養殖研)・○北野忠(東海大・教養)・河野裕美(東海大・沖縄地域研)

P-12 Patterns of DNA methylation in heat susceptible coral *Acropora digitifera*

○Jun Ishida (Grad.S.Eng.Sci., Univ. Ryukyus), Akira Iguchi (Geol.Suv. Japan, AIST), Kazuhiko
Sakai (Trop. Bios. Res. Ctr., Univ. Ryukyus)

- P-13 Understanding population structure of *Acropora digitifera* around Sesoko Island using EpiRadSeq
 ○Mayara Nishi (Grad.S.Eng.Sci., Univ. Ryukyus), Akira Iguchi (Geol.Suv. Japan, AIST), Kazuhiko Sakai (Trop. Bios. Res. Ctr., Univ. Ryukyus)
- P-14 西表島網取湾における2016年大規模白化後のミドリイシ科サンゴ群集の現状と回復評価
 ○國島綾乃(東海大・生物)・黒澤華織(東海大・海洋)・村上智一(防災科研)・中村雅子(東海大・海洋)・水谷晃(東海大・沖縄地域研)・下川信也(防災科研)・河野裕美(東海大・沖縄地域研)
- P-15 沖縄島西海域で混獲されたアカウミガメ *Caretta caretta* の体サイズについて
 ○上原充輝・十亀峻輔・永井大翔・平岡智裕(琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーみー)
- P-16 DNA バーコーディングを用いた西表島に生息する2種の肉食動物の食性解析の試み
 ○戸部有紗(琉球大・理)・伊澤雅子(琉球大・理)・佐藤行人(琉球大・戦略セ)・和智仲是(琉球大・島嶼研)
- P-17 GPS ロガーを用いた西表島低地におけるカンムリワシ 3 個体の行動追跡
 ○水谷晃(東海大・沖縄)・山本誉士(統数研)・北浦堅次(環境省・西表)・伊澤雅子(琉球大・理)・河野裕美(東海大・沖縄)
- P-18 プレイバック法による仲ノ神島のアナドリの生息状況
 水谷 晃(東海大・沖縄)・山本誉士(統数研)・河野裕美(東海大・沖縄)
- P-19 やんばる地域における侵略的外来種「ネコ」の現状
 ○黒田ゆうび・金城貴也(NPO どうぶつたちの病院沖縄)・小林峻・大河原陽子・伊澤雅子(琉球大・理)・大沼学・羽賀淳・中村織江・岩田律子(国立環境研究所)・中谷裕美子・金城道男・長嶺隆(NPO どうぶつたちの病院沖縄)
- P-20 沖縄島における食虫目および齧歯目の毛の形態による種判別法の検討
 ○安里瞳(琉球大院・理工)・伊澤雅子(琉球大・理)
- P-21 教科書における外来生物の扱い
 ○比嘉俊(琉球大学・教職大学院)
- P-22 「国立自然史博物館の設立を目指して」シンポジウム開催報告
 ○竹村明洋(琉球大・理)・藤田和彦(琉球大・理)・昆 健志(琉球大・研究推進)

<ポスター講演(高校生)>

- KP-01 今帰仁村内の河川調査Ⅱ ～瀬切れ現象からの水生生物の回復過程について～
 ○新城航也・○山口宙・○新垣柊人・○渡邊鼓太郎・○比嘉智也・○渡邊琴璃(北山高校生物部2年)・○伊豆原滉一郎(北山高校生物部3年)
- KP-02 ミナミトビハゼの奇妙な巣穴の謎に迫る
 ○長谷川廉・小波津友梨・安里梨花(コザ高・生物部)
- KP-03 あなたも見かけで判断するの?～タコの認知能力を解き明かす～
 ○仲間楓・当山咲(コザ高等学校)

【16:00～17:30】公開シンポジウム 学生会館SAKURAUM 3階A会場

環境省沖縄奄美自然環境事務所 共催

「おきなわの自然が盗まれる！」

コンビナー:伊澤 雅子・傳田 哲郎(琉球大学・理)

豊かな自然に恵まれた琉球列島の島々。生物多様性が特に高い地域として世界自然遺産の候補地にも挙げられ、その自然の重要性が世界中から注目されています。しかしながら、現在この地域の貴重な生物多様性は、様々な要因によって危機にさらされています。その一つが、希少な動植物の違法な採集や持ち出しです。密猟や密輸出の問題は、これまで噂の域を出ず、あまり社会の注目を集めることはありませんでした。しかし、昨年末に国指定の天然記念物であるリュウキュウヤマガメの密輸出事件が発覚したことを受けてクローズアップされ、その対策が急がれています。このシンポジウムでは、こうした密猟・密輸出の実態について広く知っていただくため、その現状や問題点、防止に向けた取組みなどについて紹介します。

「密猟・密輸出の現状と対策」

東岡 礼治(環境省沖縄奄美自然環境事務所)

「沖縄における昆虫類の違法採集」

佐々木 健志(琉球大学博物館・風樹館)

【18:00～】懇親会

名桜大学・大学食堂

公開シンポジウム終了後、懇親会を予定しております。今回は自然豊かなやんばるの名桜大学キャンパス内です。講演時間内に出来なかった討論や会員同士の親睦をより深めるため、是非ご参加下さい。

2018 年度 沖縄生物学会 第 2 回評議員会報告

沖縄生物学会評議員会が 2019 年 4 月 9 日(火)午後 7 時から、琉球大学理学部 528 教室において開催されました。参加者は 17 名でした。

[審議事項]

1. 第 56 会大会準備・運営・分担について

大会は 2019 年 5 月 25 日(土)公立大学法人名桜大学サクラウム1階から3階にて開催予定であることが報告されました。詳細は 1~7 ページをご覧ください。

2. 池原貞雄記念賞について

千木良選考委員会委員長より報告がありました。通信 103 号で 12 月 6 日に募集開始し 1 月 31 日で締め切った結果、応募がなかったことが報告されました。よって該当者なしとすることが承認されました。今後、積極的な応募に向けた取り組みを検討していくこととなりました。

3. 学会通信の準備状況について

山川庶務幹事より報告がありました。例年通りの内容に加え、自然史博物館に関する報告を追加することが承認されました。池原貞雄記念賞に関するお知らせを掲載することとなりました。

4. 役員について

当山会長より、交代になる役員の報告がありました。監査は総会の承認が必要なので、5月の評議員会、総会までに内諾を得ておく必要があることが確認されました。

[報告事項]

1. 会誌 57 号追悼号について

会誌 57 号追悼号について、業績一覧に加えて多くの追悼文が寄せられ、充実した内容となったことが報告されました。また、発行が若干遅れていることも報告されました。

2. 自然史博物館の設立に関して

2019 年 2 月 1 日(金)に沖縄銀行本店にて開催されたシンポジウムの内容について、竹村庶務幹事より報告がありました。詳細は 9 ページをご覧ください。本学会は自然史博物館を一般の方々にアピールし、設立に向けて協力していくことが確認されました。

3. 理科教育連携ワーキンググループ(WG)の強化に向けて

当山会長を中心に理科教育連携ワーキンググループ(WG)のメンバーが構成されたことが報告されました。今後はこの WG で議論を進めていくこととなりました。

「国立自然史博物館の設立を目指して」シンポジウム開催報告

日本学術会議動物科学分科会と自然史・古生物学分科会、一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会が主催し、沖縄生物学会他が共催したシンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して」が平成31年2月1日に沖縄銀行本店5階ホールを会場として開催されました。5回目となる今回のシンポジウムは、副題を「沖縄の未来形成に果たす役割と責務」とし、国立自然史博物館が沖縄の地域経済発展や次世代育成にどのように貢献できるかという視点を入れつつ話し合いました。県庁・県議会関係者や経済界の方々を含めて約80名の方が参加しました。第一部の発表者およびタイトルは以下の通りでした(発表者等の敬称略)。

基調講演1

岸本健雄(日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学・客員教授)
国立沖縄自然史博物館構想

基調講演2

赤司善彦(市民ミュージアム大野城心のふるさと館・館長、九州国立博物館・名誉館員)
九州国立博物館の誘致活動と設立後の役割

沖縄経済の持続可能な発展に果たす自然史博物館の役割

伊波一也(沖縄銀行・常務取締役)
沖縄社会の熟成と発展に果たす企業の役割と責任
松浦啓一(日本学術会議連携会員、国立科学博物館・名誉研究員)
自然史標本の社会的意義
渡辺真人(産業技術総合研究所・ユネスコ世界ジオパーク評議員)
ジオパーク～自然史と社会をつなぐ～
宮崎 悠(一般社団法人キュリオス沖縄・代表理事)
自然史を応用して地域独自の観光コンテンツを創る

基調講演1では、日本で初めての国立自然史博物館を設立する活動の進展状況とともに、沖縄に造るべき国立自然史博物館の現在の構想が報告されました。また基調講演2では、九州国立博物館が設立されるまでの経緯が紹介され、研究者、行政関係者、市民が協働した誘致活動の重要性が示されました。また、「沖縄経済の持続的な発展に果たす自然史博物館の役割」と題し、4名の方から沖縄に造るべき国立自然史博物館像を含めて専門的な立場から話題を提供していただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、第一部発表者に加えて、西田睦(琉球大学・理事・副学長)、大浜浩志(沖縄県環境部・部長)、馬渡駿介(北海道大学・名誉教授)、斉藤成也(国立遺伝学研究所・教授)が登壇し、会場からの質問に答える形式で国立自然史博物館のあるべき姿を語り合いました。なお、シンポジウム終了後の懇親会および後日開かれた設立準備委員会の会議では、本構想が県内外でもっと広く知られることの重要性があらためて話題にのぼり、そのために沖縄生物学会との連携が不可欠であることが確認されました。



第一部(基調講演)の様子



第二部(パネルディスカッション)の様子

「生物関連画像データベース」のお知らせ

2016年5月の学会総会で提案、可決いたしました沖生会理科教育連携ワーキンググループ運営による画像データベース(以下 DB)が、稼働しております。

下記 URL よりユーザ名、パスワードを入れれば閲覧が可能になっております。このユーザ名とパスワードは一時的なものですので、完全公開になればまた変更の可能性があります。

http://www.okibio.jp/photo/index.php
ユーザ: oki_estu
パスワード: 0kibi0_estu

まだまだ投稿画像が少ない状態です。会員の皆様方には一度ご覧になって頂き、どしどしご応募いただければと思います(画像投稿の方法は通信 100~102 号を参照して下さい)。

URL より閲覧してみると右の図のような画面になります。ワーキンググループによって立派な DB の入れ物ができているようですが、まだ十分に活用されていません。画像が増えると活用も増えることが期待されます。



池原貞雄記念賞について

通信 103 号にて、沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集しましたが、今回は応募がありませんでした。規約にあるとおり、本賞は沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。

以下に池原貞雄記念賞候補者推薦要領から一部を掲載します。次回の募集は、通信 105 号に掲載されます。また、学会のHPも参照して下さい。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。

3 候補者の例示

- (1) 表彰規約の若手とは、おおむね45歳以下をいう。
- (2) 表彰規約の長年とはおおむね10年以上とする。
- (3) 表彰規約3の2)の(1)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の生物に関する論文、講演などの実績があるもの。
- (4) 表彰規約3の2)の(2)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績があるもの。
- (5) 表彰規約3の2)の(3)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の自然環境の保全に関する活動実績(書籍、事業、イベントなど)があるもの。

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2019年4月時点)。任期は2年間で、2020年5月の総会までです。

会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)
副会長 千木良 芳範(宜野湾市立博物館)、上間 勉(沖縄生物教育研究会)

監査員 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学)
兼久 和也(琉球大学) 富永 篤(琉球大学)

評議員

大学関係 比嘉 俊(琉球大学) 金城 和三(沖縄国際大学)
渡邊 謙太(沖縄工業高等専門学校)
研究機関 岡 慎一郎(沖縄美ら島財団)
長井 隆(沖縄県環境科学センター) 水野 拓(イーエーシー)
行政機関 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)
德里 政哉(沖縄県自然保護課)
高校関係 花原 努(コザ高校) 照屋 香(沖縄工業高校)
中学校関係 原戸 鉄二郎(安慶田中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 千木良 芳範(宜野湾市立博物館)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)
齊藤 由紀子(琉球大学) 竹村 明洋(琉球大学)
中西 希(琉球大学) 山川(矢敷)彩子(沖縄国際大学)
会計幹事 傳田哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)
編集幹事 成瀬 貫(琉球大学) 守田 昌哉(琉球大学)
編集委員 久保田 康裕(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)
大瀧丈二(琉球大学) 今井秀行(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会 賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098)868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石哲也
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098)942-0085

原稿募集のお知らせ

これまで沖縄生物学会誌では、12月末に「締め切り日」を設け、この日までに投稿された原稿を全て掲載してきました。しかし、一部論文では審査が長引き、その結果、出版が本来の3月末から大幅に遅れ、9月や10月に発行されていました。そこで、第45号より締め切り日を廃止し、期日までに投稿されたものでなく、印刷業者への入稿日までに審査の終わったものを掲載するように変更しました。

1回の審査には、早くも2週間、通常は2ヶ月程度要しています。編集委員会での承認や校正作業、さらには年度末の印刷業者の混み具合、査読者への負担等を考えると、年明けに審査の終了していない論文は掲載が非常に難しくなります。

つきましては、諸事情をご理解の上、何卒お早めのご投稿をお願いします。投稿に際しては、第45号より投稿規定が大幅に変更されていますので、ご注意ください。また、ご都合がございましたら、お問い合わせをお願いします。

なお、e-mailによる原稿に関するお問い合わせは、編集幹事の成瀬貫 (naruse@lab.u-ryukyu.ac.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先: 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
沖縄生物学会編集委員会

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL: (098)895-8577
庶務 中村 崇 (098)895-8897
FAX: (098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座(郵便): 02030-8-30433 沖縄生物学会